

令和7年度第3回食品ロス削減推進計画部会

日時：令和7年12月9日（火）

10時～11時

場所：咲洲庁舎21階

公害審査会室（オンライン開催）

○事務局（荒木総括課長補佐） 定刻となりましたので、第3回の食品ロス削減推進計画部会を開催させていただきます。委員の皆さま方におかれましては、本日もお忙しい中ご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。本日、進行を務めさせていただきます、大阪府流通対策室の荒木でございます。本日もよろしくお願いいたします。

まずはじめに、本日の皆さまの出席状況についてですが、花田部会長をはじめ、石川部会長代理、迫田委員、吉田委員にご出席いただいております。なお、近藤委員におかれましては、所用によりご欠席となっております。

部会の委員につきましては、計5名で、本日4名の皆さまにご出席をいただいております。部会の運営要領に基づきまして、2分の1以上の皆さまのご出席により、本部会は成立していることをここにご報告申し上げます。

次に、本日の資料の確認をさせていただきます。画面に投影しております次第に沿って確認をさせていただきますけれども、本日の議題につきましては、部会の報告案などについてということで、資料1と2、参考資料1と2という形で提供させていただいているかと思えます。会議では、画面投影でご説明させていただきますけれども、それぞれ資料1と2、参考資料の1と2、お手元に届いておりますでしょうか。よろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。

それでは続きまして、本日の進め方でありまして、委員の皆さま方におかれましては、基本的には音声をミュートに設定いただきまして、ご発言の際は、挙手ボタン等でお知らせいただき、音声のミュートを解除してご発言いただきますよう、ご協力をよろしくお願いいたします。

それでは早速ですが、ただいまから議事に移りたいと考えております。花田部会長、議事進行につきまして、どうぞよろしくお願いいたします。

【資料1 第2回食品ロス削減推進計画部会の意見及び対応について】

○花田部会長 あらためまして、皆さまおはようございます。お忙しい中お集まりいただき、どうもありがとうございました。

では早速ですが、お手元の議事次第の資料に沿って進めていきたいと思えます。まず資料の1、第2回食品ロス削減推進計画部会の意見及び対応部会の運営についてということでございます。事務局からご説明をお願いできますでしょうか。

○事務局（竹内総括主査） 事務局竹内でございます。資料1ということで、前回第2回の部会の意見と対応ということで、ご説明させていただきます。

大きくは一つ、施策体系と構成案についてというところと、計画本文の案についてというところで、ご意見をいただいております。

まず施策体系及び計画の構成案についてというところで、事務局の方から、施策体系については、家庭系の削減をさらに進めていくために、「家庭における食品の使いきりの推進」、事業系・家庭系双方の食品ロス削減にアプローチするために「食品の売りきり・食べきりの

推進」と「未利用食品の有効活用」と、この三つの柱を掲げて取り組んでいくという案をお示ししております。

計画の構成については、この内容に沿って、課題と方向性にかかる項目、施策体系にかかる項目というところを新しく入れさせていただいて、内容については各主体の役割の順番を、消費者を前に持ってくるとか、まずは各主体の役割というものを先にするといったところで、施策体系に沿って基本的施策の方を再構成するといった構成の入れ替えである新設ということをお案として出させていただきました。

これで部会にお示しさせていただいたところ、施策体系についてはこの3本の柱を掲げることです承いただき、計画構成に関しても、事務局案です承いただいたというところでございます。

次に、本文の案についていくつかご意見をいただいております。まずは、スローガンということで、「もったいないやん！」食の都大阪でおいしく食べきろう、「(「始末の心」で)無駄にせず売りきり・食べきり・使いきり！」というところでお案をお示しさせていただきました。

部会のご意見の中では、まずこの「捨てずに」というところが4文字なので、5文字にする方がリズムがよいというお話と、あるいは「捨てずに」はなくてもいいかもというところで、まずは対応としてはスローガンのところで「もったいないやん！」食の都大阪でおいしく食べきろう」というところで、この5文字のところは「無駄にせず」というところでお案をつくっております。

今括弧が入っているんですが、ここを提示していたんですが、この第3回の部会に臨むに当たって、あらためて府内部で議論をしていたところ、まず「始末の心」という表現が、若年層を含む広い世代に訴えるには、少し言葉が古いんじゃないかなというところで、この「始末の心で」がなくても「無駄にせず売りきり・食べきり・使いきり！」でもシンプルでよいのではという意見もあらためて出てまいりましたことから、「始末の心で」を括弧書きで示させていただいております。この後ご意見をいただくときには、この点を含めて、ちょっとフラットな視点でご意見をちょうだいしたいと、このスローガンに関しては考えております。後ほどまたご意見をいただければと思います。

続きまして、第5章の各主体の役割についてのリード文全文でございますが、「食品ロスは事業者及び消費者の双方から発生しており」というところで役割を話すところなんですが、赤字の部分の、「削減にあたっては事業者の取組に加え、消費者の理解を深めることが必要です」。この部分に関しまして、深めることは、「必要」より強く「肝要」「重要」のレベルではないでしょうかというご意見をいただいております。

その後ろ、「事業者と消費者が」というところの赤い部分なのですが、この中で事業者や消費者の「立場」であったり「役割」、それを「理解する」という表現が、府が役割を決めて指導するような印象を招きかねないというところで、もっと各主体が問題、思いを共有し、考えて行動する、そんな工夫を支援、応援していくというような表現がよいのではというご

意見をいただいております。

それを踏まえまして、下段の事務局対応というところで案を作成しております。一つは、消費者の理解を深めることは重要ですというところで、レベルを上げさせていただきました。

後段につきましては、食品ロスの問題を解決するためには、事業者と消費者のそれぞれが、この問題を自分のこととして捉え、考えていく必要があります。このため、本章で示す「消費者の役割」、「事業者の役割」で示すような行動を実践しながら、双方向でコミュニケーションを取り合い、それぞれの課題や考えを共有し、相手の取組を応援することが大切です。こうした事業者と消費者が行っている具体的な取組を、府は、本計画の基本的施策を通じて、支援していきます。また、地域の特性に応じた取組を展開する市町村を支援するとともに、消費者・事業者・市町村などの各主体が連携・協働した取組を進めていきますというふうに案を作成させていただきました。

第5章の1の消費者の役割について、行動例という形で、買物であったり食品の保存、調理、外食といったときにどういった行動をするのかという例をお示しする形でやっておりましたところ、意見で、部会の方では、食品ロスにつながるサービスを選択するという行動を示せばよいのではというところ。こちらは、リード文にも書いてはあるんですが、あらためて行動例として示せるといいですよというご意見をいただいております。それに対応いたしまして、(5)として「商品・サービス選択の際」を追加しております。

食べきれ量のメニューや商品、保存性の高い加工や包装の商品、食材の使いきりメニューを案内されている商品、食べ残しの持ち帰りサービス、未利用食品を使った加工品など、食品ロス削減に繋がる商品やサービスを積極的に利用し、持続可能な生産・製造・販売活動を行う事業者の取組を支援しますというのを追加させていただいております。

この中身ですね、事例の方は、特に国のひな型があるわけではなく、事務局で検討して書いておりますので、この書きぶりについてもご意見をいただけたらと思っております。

最後に、第6章、未利用食品の有効活用についてのリード文です。こちらの方は、施策の中身を食品寄附、フードシェアリングサービス、あるいは加工といった未利用食品の利用拡大に関しての施策を書いている部分です。こちらの方は、その食品寄附、再販売・加工への対応というところで取組を以下のように書いておったところ、ご意見としましては、食品寄附と、再販売・加工というものは、事業者から見れば異なる取組なので、一緒にするとちょっと分かりにくくなっているので、そこを二つに分けて記載の方が分かりやすいのではというご意見をいただいております。事務局で、こちらで分ける形で以下のとおり文章を修正させていただいております。

まず、文章の方は、もともと書いていたところから「食品寄附については」というのと、「再販売・加工等については」ということで、内容を分けております。事業者の方のフードシェアリングサービスや加工についてということで、書き足させていただいているのと、下の①、②として分類しておりました取組みについても、「食品寄附の促進」と、「再販売・加

工等の促進」というところで分けさせていただいて、もともとの一番下にございました事業者によるフードシェアリングサービスとの拡大支援を「再販売・加工等の促進」ということで、③ということで分けさせていただきました。資料1についての事務局からの説明は以上になります。ご意見よろしくお願いいたします。

《意見交換》

○花田部会長 ご説明ありがとうございました。事務局から、前回の部会で出していただいたご意見、それからそのご意見を踏まえた計画の修正案ということで、ただいまご説明がありました。まず、1の施策体系及び計画の構成案について、これは3本の柱になりましたというご報告だったと思います。

次に、計画本文案についてということですが、まず、どうしようかというご質問が投げ掛けられているのがスローガンのところかと思います。「始末の心」で無駄にせず売り切り・食べきり・使いきり！」にしてはどうかということが、前回の部会で出たと思うんですが、それで、「無駄にせず」は要らないかなというところと、別の「始末の心で」というところが、少し古い表現なんじゃないかというご指摘があったので、これをどうしようかということかと思います。

まずこれについて、ご意見をぜひお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。「始末の心」は古いですかね。

事務局でお若い方がいらっしゃいますよね。いかがでしょう。

○事務局（清瀬副主査） 普段使う言葉ではないというのはありますが、ただそんなに古いという印象は、これまで受けてはいなかったというのはありますね。

○花田部会長 ありがとうございます。

○事務局（矢倉副主査） 古さというか、私はたぶん今まで生きてきて、「始末の心」というワードはあんまり、もしかしたら聞いたことがないかもしれないですね。

○花田部会長 じゃあ、聞いても分からないということですかね。

○事務局（矢倉副主査） わからないという意味ではなくて、「始末の心」と言われると、まあ大切にとか、そういうところのイメージにはつながると思うんですが、今まで生きてきた中で聞きなじみがないと。

○花田部会長 なるほど、分かりました。ありがとうございます。委員の皆さまいかがでしょうか。ぜひご意見をお伺いしたく。迫田委員お願いします。

○迫田委員 はい、「始末の心」というのは、まさに大阪らしさを表現していると思うんですね。日本でも数少ない表現で、これを捨てるのはもったいないという気はします。ただ、このスローガンのターゲットをどこに持っていくのか。若い人なのか、年配なのか、あるいは府民全体なのかによっても、この表現というのは変わってくるのかなと。小学生から例えば、先ほどの清瀬さんぐらいの年齢の方を対象にするんだったら、「始末の心」というのはひょっとしたら要らないのかもしれないなと思いながら聞いていました。

だから、ターゲットをどこに置くかというのは、ちょっと大事なのかなと思いました。以上です。

○花田部会長 どうもありがとうございます。大阪らしさという点では捨てがたいけれども、ターゲットによっては少しずれてくるんじゃないかというご意見をいただいたと思います。どうもありがとうございます。他の委員の方いかがでしょうか。吉田委員、いかがですか。

○吉田委員 迫田さんがおっしゃるように、「始末の心」って入っていることで、ちょっと大阪らしさというか、ぐっと上がるかなという感じはしますが、私の年でもあんまり使わないと言えば使わないかなという感じがするのと。すみません、今どっちという答えを持っていないまま話すと、「始末の心」がない方がすっきりするというか、長くなりすぎなくていいなという感じはするんですが、ただ引っ掛かるところがなくなってしまうというか、印象に残らない感じはするかなと。どこにでもある言葉と言ったらあれなんです、さらっと流れてしまう感じはするので、そういう意味では、べつにあってもいいのかなと思ったりもしています。

どっちという意見が今出せないんですが、そんなことを思いながら皆さんのご意見を聞いていました。

○花田部会長 ありがとうございます。なかなか答えが出にくいという難しいところですね。

○石川委員 迫田さんと吉田さんがおっしゃったとおりだと思います。「始末の心」ってたぶん使う言葉ではないと思うんですね。私もあんまり自分で使った記憶がないですね。意味が分からないわけではないです。「始末の心」と言われれば、船場汁かという、そういう感じにつながってくる。知識としてはつながるという感じですね。

ですから、それが高校生とか大学生とか20代、30代の子どもがいたとしても、小さい子どもぐらいの世代のところだと、どう受け止めるかなというのは、分からないところですね。使った記憶はたぶんないし、たぶん聞いた記憶があるかないかぐらいじゃないかなと思うんですね。

吉田さんがおっしゃったように、メインのところで「もったいないやん！」食の都大阪でおいしく食べきろう」のところは、まあ大阪らしいのが満開なんです、サブタイトルのところで「始末の心」が抜けると、特に何にもないなという。メインのところに大阪らしさがあるからいいとも言えるし、「始末の心」って何という引っ掛かりをつくるという価値も、かなりあるんじゃないかなという気がしますね。なかなか難しいところで、まさに迫田さんがおっしゃったようなターゲットをどこにするのという、そういう話なんだろうと思いますね。

一定以上の年齢層だったら、べつにあっても意味も通じるし、あった方がいいかなと思います。

○花田部会長 ありがとうございました。まさに、委員の皆さまが整理してくださった考え

るべきポイントというのがあって、それがこっちがいいとはなかなか言いきれないという、どちらもですね。ということがあると思います。

私は関東の出身なのですが、「始末の心」というのは知っていましたし、やっぱり大阪らしいなという感じがあります。それで、このスローガン全体をこう見たときに、先ほど「無駄にせず」は取ってしまおうかというお話がありました。それで、ものすごく大胆にするならばなんですけれども、最初の1行のところに、「“もったいないやん！” 食の都大阪でおいしく食べきろう」、これもちょっとリズムが悪いんですよ。すみません、リズムのことばかり言っていて。

それで、「おいしく無駄なく食べきろう」にすると、リズムがよくなるんですね。「“もったいないやん！” 食の都大阪でおいしく無駄なく食べきろう」。それで、下はもうすっきりと。「始末の心」を入れるかどうかはともかく、もう「売りきり・食べきり・使いきり！」にすると、何をするかというのがぼんと出てくるかなというふうには思っています。一つのご提案なんです。

つまり、スローガンでもう全てを言っちゃって、何をするかというのを下に持ってくるという感じで、つまり「始末の心」も「無駄にせず」も取ってしまうと、それはそれですっきりするなと思いました。

ただ、先ほどの引っ掛かりとか、大阪らしさというのはやっぱり捨てがたいんですよ、どうしても。だから、この計画というのは、何年なんでしたっけ。

○事務局（竹内総括主査） あと5年です。

○花田部会長 あと5年ですよ。だから、今回は入れておいてもいいんじゃないかなと。ターゲットがまだそれほど、5年間だと世代交代しないので。それで、この間に「始末の心」というのをもう1回若い方にこれをきっかけに考えていただくというのもありかなと思ったりもいたしますが、いかがでしょうか。府内でそういうご意見が出てきたというのは、一つの方かなと思うので、ここで考えるところではあるんですけども。

そうすると「無駄にせず」は取ってしまっ、「始末の心」で売りきり・食べきり・使いきり！」の方がたぶんすっと入るかなと思うので。

それで、「無駄にせず」を取ってしまっ、もし長くなりすぎるのがよくないということなら、もう上はこのままでいくし、それから「食の都大阪でおいしく無駄なく食べきろう！」というところで、ちょっと「もったいないやん！」と呼応するかなというふうにも思うんですが。

「もったいないやん！」というので、すごくかわいらしく大阪らしさが出ているなと私なんかは思うんですが。どうでしょう、「始末の心」。部会の中では結論が出ません。すみません。

○事務局（荒木総括課長補佐） ありがとうございます。すみません、われわれ事務局の方も、実は今おっしゃっていただいた意見のところもかなり議論がありまして、おっしゃってもらったみたいに「始末の心」という大阪らしさというところで捨てがたいなという話と、

一方でわれわれ大阪府の行政計画というところで、あらゆる世代をターゲットにしていくというところがあるので、若い人たちだけ向けにという面ではないので。

ただ、そうは言いつつも、若い人たちにも分かってもらえるというものにしていけないというところで、かなり悩んでいるところであります。

一方で、「“もったいないやん！” 食の都大阪でおいしく食べきろう」というのは、計画策定当初から掲げているスローガンですので、これについては、引き続きまして10カ年の計画というところもありますので、ここは維持をしていきつつ、あとはスローガンというところで、今先生がおっしゃっていただいたみたいなのところの「始末の心」を入れる、入れないというところ、議論はあるんですが、ちょっと検討していきたいなと。

ただ、われわれの中ではやっぱり最終的に若い人たちにあまり響かないというところがちょっと強いという話になるんやったら、落とさざるを得ないのかなというのが今正直なところですよ。

○花田部会長 分かりました。これを機会に若い人に「始末の心」を知ってもらおうという、方向としては難しいですかね。

○事務局（荒木総括課長補佐） そういう考え方もあると思っていまして。どちらがいいのかなというのが、すみません、われわれも実は今答えが出ていなくて、皆さんのご意見をお伺いしたという次第です。

○花田部会長 はい、分かりました。ありがとうございます。委員の皆さま、ということで、方向としては「始末の心」はこれで消えそうですか。

○事務局（青山課長） これは難しいんですよ。あってもなくても、本当にどちらがいいというのはなかなか決めがたくて。府内部だけではなくて、委員の皆さまにもご意見をお伺いしたところではあるんですが、今お聞きして、ますます悩みが深くなったような気がしています。

○花田部会長 すごく委員の方たちが的確にポイントを突いてくださったので、そうかなとも思う。どうでしょう、やっぱり部会でこっちの方がという、なかなか強く言えないという感じだとすれば、事務局にお任せするのかな。もし委員の皆さまがそれでよろしければなんですが、やっぱり残しておいた方が。このままでいくと、なんか雰囲気的に、感觸として、「始末の心」がなくなりそうな感じなんです。だから、ここでちょっと「始末の心」の応援があると、踏みとどまるかもしれないんですが、いかがですか。

残しておくといいなという感じが個人的にはしますが、やっぱり残しておいた方がいいということも、一方でございますよね。

○石川委員 「始末の心」でのネガティブというんですかね。問題は、若い人は意味が分からないでしよう、そういう話とかなんだと思うんですね。でも、それは一方で、吉田さんが指摘されていた引っ掛かりという意味でもある。そういうふうにも捉えることはできるわけですね。それで、100%分かる言葉が並んでいたら、それで行動につながるかと。

もう「売りきり・食べきり・使いきり！」とそれは、どこの自治体でも言っているような話で、「またか」というところもありますよね、そういう意味で言うと。「始末の心で」というところで、聞いたことがない人とか分からない人は、何だろうと思うというふうなところは、そこをポジティブに捉えるということはあるかなという気はちょっとするんですけどね。

若い人が全員まったく意味がつかないとは思わないですよ。一部の人は知っている人も、それなりにいるんじゃないかと思います。人数が少ないかなと思うんですね。そのところが、どういう効果があるかなというのを考えるところで。

時間もないし、調査するわけにもいかないし。私は意味が分からないのは事実としてそうでしょうけれども、すぐ分からなくても、それは引っ掛かりで、考えるきっかけになってくれるというところに期待するという意味では。

「無駄にせず」があると長すぎるんですが、「無駄にせず」を外してしまえば、あった方がいいんじゃないかという気はします。

○花田部会長 ありがとうございます。吉田委員、迫田委員いかがですか。残すと言ってもいい感じですかね。

○迫田委員 私はフックとして残した方がいいとは思いますが。

○花田部会長 はい、ありがとうございました。吉田委員もさっきそういうお話でしたよね。分かりました。

○吉田委員 はい、残していただく方向で。

○花田部会長 はい、ありがとうございます。というわけで、全員一致で部会としては残した方がいいのではないかという意見でしたというところでお返ししたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○事務局（荒木総括課長補佐） はい、ありがとうございます。本日いただいたご意見を踏まえまして、最終的に中で整理をさせていただきたいと思います。基本的には部会でのご意見というところで残した方がということで、承知をいたしました。

○花田部会長 そうですね。特に今のご意見ですよね。むしろ引っ掛かりとして残しておいた方がいいんじゃないかというあたりは、本当にそうだなと思うので、そのあたりをお伝えいただいて、またご検討をよろしくお願いしたいと思います。ありがとうございます。

○事務局（青山課長） ありがとうございます。

○花田部会長 それから、その他の資料ですけれども、あとはこういうふうにしましたということをご説明いただいていると思います。この点に関して、何かご意見がございましたらお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

どちらかと言うと、文章が多くなる方になっていますけれども、これはきれいに収まるということでもよろしいんですよね。

○事務局（竹内総括主査） はい、大丈夫です。

○花田部会長 はい、ありがとうございます。特にご意見はございませんか。はい、ありが

とうございました。それでは、スローガンに関しては持ち帰っていただくということで、一応資料１のその他のところはこのとおりということで、よろしくお願いいたします。

【資料２－２大阪府食品ロス削減推進計画の見直しにかかる部会報告（骨子）について】

○花田部会長 では、続きまして次の資料ですね。資料２－２、大阪府食品ロス削減推進計画の見直しにかかる部会報告について、事務局からご説明をお願いいたします。

○事務局（竹内総括主査） 引き続き、よろしくお願いいたします。計画の見直し案として、資料２－１の報告案、２－２の報告骨子案と二つございます。内容については、資料２－２の報告骨子案にて、説明をさせていただきます。

計画の概要といったところになりまして、これまでの検討案を入れているというところ です。左上からご説明いたします。

まず、第１章基本的な方向、第２章基本的事項ということで、基本的な方向の中に府民の「もったいない」と「おいしさを追求する」心を大切に、事業者、消費者、行政が一体となってというところで、ここでスローガンが出てくるのでここは持ち帰りにはなっておりますけれども、「もったいないやん！」食の都大阪でおいしく食べきろう」というところで、「始末の心」で売りきり・食べきり・使いきり！」と今の案ではそうなんですが、そのように取組を進めるというところ。

第２章は基本的事項として計画の位置付けというところで、行政的なところを書かせていただいております。食品ロスの削減の推進に関する法律、あと、基本方針を踏まえまして、都道府県の食品ロス削減推進計画として策定しておりますというところと、府内の関連計画の関係で、大阪府の循環型社会推進計画等の関連計画と調和を図りまして、大阪府の環境総合計画の考え方を踏まえて策定しました。

計画期間については、国の基本方針とSDGsを踏まえまして、２０２１年度から２０３０年度までの１０カ年計画と。ここは見直しですので、本体と統一というところになっております。

下にまいりまして、食品ロスの現状と課題というところで、部会でもお示しをさせていただいているところで、現状としては食品ロス傾向は減少傾向であります。うち事業系は２０２２年度に大幅に減少しておりますが、家庭系は微減から横ばいで推移しているという状況、食品ロス削減に取り組む人の割合については、削減の取組を２項目以上取り組む府民の割合については、高い水準値を維持して、目標達成に向けて顕著に推移していると。二つ目のところですね。入っております。

課題としましては、食品ロスの削減状況については事業系は小売外食産業を中心に減少しておりますが、外食産業については今後増加に転ずるという懸念がございます。

家庭系については量的な削減が進んでおらず、目標値まで到達できない可能性があるというところ です。

食品ロス削減に取り組む府民の割合については、顕著に推移はしているが、家庭系の食品

ロスの削減までには至っていないというところが2つ課題として出ております。

方向性については、食品ロス削減は一定進んでいるが、目標達成のためにはこれまで以上に取組を加速していく必要があると。このため、府民が削減に取り組む項目を複数以上、かつ継続して取り組むための行動変容を促進していくとともに、取組を加速させるための具体的な内容を盛り込むということで、方向性を示してございます。

上に戻りまして、第4章将来目標というところで、食品ロス量は2000年度比で30年度までに食品ロス量を事業系60%減、家庭系50%減を目指すというところでお示ししているのもともとの計画から現状値が2020年度になりまして、事業系が現状値17.3万トンに比べまして、目標値が13.3万トン。家庭系が現状値が20.5万トンに対しまして、目標値が16.1万トン。合計で現状値が37.8万トンに対して29.4万トンというふうになっております。こちらが事業系が6割減になったというところが見直しで変わったというところになります。

食品ロス削減に取り組む府民の割合ですね。食品ロス削減のための複数の取組を行う府民の割合を90%とするというところは、当初と同じというところで、現状値の方が2024年値の86.4%になっております。

第5章ですね。各主体の役割というところで、事業者と消費者のそれぞれが行動を実践しながら双方向でコミュニケーションを取り合い、それぞれの課題や考えを共有し、相手の取組を応援することが大切。

なお、発生抑制を行った上でも、発生する食品ロスについては食品寄附やリサイクル等により、適切な有効活用、再生利用に協力することとしますというふうにお示しをしまして、先ほどの役割、増えた分を踏まえまして、消費者と事業者の役割をお示しすると。

消費者については、買物の際というところでお示しをしまして、赤いところが足したところになっておりまして、すぐ食べるものはてまえどりや見切り品を活用するところを足しております。食品の保存の際に関しては、食品を備蓄する際にローリングストック法を実践すると。また、フードドライブ活動を通じた未利用食品の寄附というところを追加しております。

調理の際は、基本的に同じでして、外食の際も基本的にちょっとガイドラインの名前などが入っておりますが、入っていると。

最後に、先ほどご承認いただきました商品サービス選択の際というところで、食品ロス削減につながる商品サービスを積極的に利用して、事業者を支援するというところを入れてございます。

右側、事業者の役割については、食品製造業者・農林漁業者につきましては、小分け包装等を実施するといったところ、未利用食品を有効活用するといったところを目指していただいているというところです。

あと、すみません、一つ足せていないのが食品卸売小売業者のところでこの四つのラインナップ。外食のところも、食べきりのところのガイドラインが入っているところは赤字です。

共通事項に関しまして、赤字にするのが抜けているんですが、上の3つです。食品寄附ガイドラインに基づく未利用食品の寄附と、あと、フードシェアリングサービスの活用等による売りきりの工夫。それで、情報発信を通じて家庭での食品の使いきりを推進するということも追加にさせていただいております。こういった各主体の役割というところを第5章でお示ししています。3本柱が非常に大事でボリュームが大きいので、裏面にいきまして入れているといったところです。

第6章は基本的施策というところで、家庭系の食品を進めていくために、家庭における食品の使いきりの推進、また、事業系・家庭系双方の食品ロスの削減にアプローチするために、ここは追加になっているんですが、事業者における適正量の製造販売供給を前提としつつ、食品の売りきり・食べきりの推進及び未利用食品の有効活用という三つの施策の柱を掲げて、体系的かつ重点的に進めていくというところで、基本的施策の上段で3本柱を入れると。そこにちょっと追加で、まずは適正量を製造販売していく。供給の方を適正量とするというところは、事業系においては、大前提というところで追加をさせていただいております。

それで、三つの体系においてお示しをさせていただいていると。1からお話をさせていただきますと、体系の1、家庭における食品の使いきりの推進ということで、まず上段で削減する食品ロスについて、家庭系食品ロスの4割程度を占める直接廃棄、1割程度を占める過剰除去の発生抑制ということで、まず何の食品ロスを減らすのかということを書きまして、その下段で食品を使いきるための在庫管理、買物、保存方法及び調理等の手法を消費者に情報提供ということで、施策の方向性というか、具体的なやり方を2行目に書かせていただいております。施策については、10月、食品ロス削減月間における広域的な情報提供と、消費行動変容の呼び掛けというところで示して、その下に具体的に各施策でこういった中身をやるのかということを書かせていただいております。三つ書かせていただいて、それぞれを書いているところです。

体系2、売りきり・食べきりの推進に関してはちょっと多いので右に行きまして、こちらの方の食品ロスの方は、事業系は府内の食品ロス量の多くを占める小売外食から発生する売れ残り、食べ残しの発生抑制。

家庭系においては、食品ロスの4割程度を占める食べ残しの発生抑制ということで、お示しをさせていただいております。

中身的には、消費者の行動変容に向けた取組というところでのお示しと、適正量の把握手法等の事業間共有や連携に向けた取組の二つに分けまして、消費者行動に向けた取組では五つですね。月間の取組、飲食店の食べきり・持ち帰りの取組支援、売りきりの取組支援、大学・啓発ボランティア・事業者・市町村による啓発活動の支援、啓発媒体を活用した府民啓発。適正量の関係上、連携についてはパートナーシップの推進と表彰制度等を活用しまして、取組事例の共有・周知というものを入れさせていただいております。

最後、体系の三つ目、未利用食品の有効活用の推進というところで、こちらの方は発生抑制ができなかった食品ロスを家庭、事業者双方で活用するというところで、内容的には食品

寄附やフードシェアリングサービスといったところで、先ほどお話をさせてもらったように、食品寄附の部分と再販売・加工等の促進ということで分けて、フードドライブ、フードバンク、フードシェアリングサービスや加工というところで書かせていただいております。

最後に、推進体制ということで、ネットワーク懇話会とか庁内の組織というところで、進捗とか推進の話を書かせていただいております。これら具体的な促進を推進していく。具体的にどのような施策で推進していくかということについては、参考資料の2にロードマップ案を作成しております。こちらは、環境審議会では提出はしないんですが、どちらかというと具体的な施策について、ロードマップにまとめたような施策の中身については、この推進体制の中身にあります。ネットワーク懇話会の中で、具体的な推進について検討したり、ご意見をいただいたりというところで進めていきたいと考えております。

非常に長くなりましたが、資料2については以上です。なお、資料2-1の報告案、計画本文についてご意見がございましたら、ここでご意見をいただきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

《意見交換》

○花田部会長 はい、ご説明ありがとうございました。事務局からただいま計画見直しにかかる部会報告案につきましてご説明がありました。説明内容について、ご質問、ご意見などを承りたいと思うんですが、私がちょっとお伺いしてもいいですか。

○事務局（竹内総括主査） はい。

○花田部会長 資料2-2の表面、第3章のところ、食品ロス量推計というのがございます。それで、2030年の目標というのが32.2となっているのですが、第4章の将来目標の表を拝見すると29.4なんですが、ごめんなさい、ちょっと教えていただけますか。

○事務局（竹内総括主査） 大変失礼いたしました。第3章のグラフに書いている食品ロス量の目標というのが、見直す前の当初目標のグラフで書かせていただいているので、それが6割減になって引き下げになっています。そこは、ダブルスタンダードになっておりますので、検討した段階では当初目標でお示ししていたので、当初の目標として整理をさせていただきます。

○花田部会長 数字が合わないなと思ったので、聞かせていただきました。それからもう1点なんですが、その下のグラフ、第3章の下のグラフで、食品ロス削減の取組を2項目以上取り組む府民の割合というところで、2020年は何%でしたっけ。

○事務局（竹内総括主査） 81.9%です。申し訳ございません、ここも脱落しております。

○花田部会長 はい。これもちょっと数字を入れておいた方がいいかなと思います。一番左の棒グラフのところですね。ちょっとそれが気になったので、お伺いしました。では、委員の皆さまからぜひ。

ご質問でもご意見でも。計画本文というか、資料2-1についても、もしご意見がありま

したらというところでございます。

○吉田委員 第6章のところで、体系1とか体系2の中に大学・啓発ボランティア・事業者等々の連携だったり支援というところがあるんですが、もしかして大学だけじゃなくて、学校によっては高校とかとも一緒にできることがあるんじゃないかなと何となく印象として思いました。なので、例えば大学と連携みたいにいっきってしまっているところが、もしかしてもうちょっと大学だけじゃない、なんか含みを持たせるというか、そういう書きぶりでもいいかなという感じがちょっと印象としてありましたというところが、一つ気になりました。

○花田部会長 ありがとうございます。「等」と入れるか「教育機関」でしょうかね。

○吉田委員 そうですね。確かに変えるとなると、例えば小学校とかだと厳しいかなと思うんですが、大学じゃなくて高校とかだったらあるかなと思うと、「大学等」とかに変えてもいいのかなと。それで、「大学等」と書いているところと「大学」といっきっているところが交じっていたので、内容によってはだから「大学等」にしてもいいかもしれないなという印象をちょっと持ちましたというところです。

○花田部会長 ありがとうございます。本当に、高校でもそういうのを専門にしている高校生たちがつくったメニューなんかを発表したりしているところもありますので、確かに「大学等」にした方が適当かなと思いますので、ちょっと事務局でその点をチェックしていただけますか。

○事務局（荒木総括課長補佐） 承知しました。ありがとうございます。

○花田部会長 はい、ありがとうございます。その他いかがでしょうか。特にございませんか。あと、資料2-1というナンバリングは付いていましたか。以前送っていただいたのをプリントアウトしたんですが

○事務局（竹内総括主査） 資料ナンバーが入っていませんでした。申し訳ありません。

○花田部会長 分かりました。べつに、どこで必要か分かりませんけれども、最終的に付けておいた方がいいかもしれないなとちょっと思ったので。すみません。他にいかがでしょうか。迫田委員、石川委員よろしいですか。

○石川委員 私は特に気が付いた点はありません。

○花田部会長 はい、ありがとうございました。迫田委員もよろしいですか。

○迫田委員 はい、今この画面に出ている「10月食品ロス削減月間」というのがあるんですが、この10月というのは先々月のことをさしているんですか。

○事務局（竹内総括主査） 食品ロス削減月間を10月にするというのが、全国的に決まっております。食品ロス削減月間は10月ですという表現になっております。

○花田部会長 そうしたら、「10月の」とした方がよくないですか。10月の食品ロス。それで迫田委員よろしいですか。

○迫田委員 はい、結構です。

○花田部会長 確かにそうですね。そういうタイトルのように読めてしまうので、「の」

を入れた方がいいかと思います。どうもありがとうございました。では、この資料2-1と2-2につきましては、抜けているところとかを訂正していただく上で、このようにしたいと思いますということで、よろしいですね。はい、ありがとうございます。

本日は、議事次第を拝見しますと、議題は部会報告案などについてということで、以上ということになります。最後に、全体を通じて何かご意見、あるいはご質問がありましたらお伺いしたいと思います。何かございますでしょうか。せっかくの機会なので。よろしいですか。

それでは、ないようでしたら、これをもちまして、本日の議題は全て終了ということになります。委員の皆さまには、本当にご意見を、とても貴重なご意見を賜りまして本当にありがとうございました。

それでは、事務局に進行をお返ししたいと思います。よろしくお願いします。

○事務局（荒木総括課長補佐） はい、事務局の荒木です。花田部会長、どうもありがとうございました。また、委員の皆さま方におかれまして、ご審議いただきまして、誠にありがとうございました。

それでは、本日で最後の部会となりますので、事務局を代表いたしまして、大阪府流通対策室長の乾より、一言、ごあいさつを申し上げます。

○事務局（乾室長） 環境農林水産部流通対策室長の乾でございます。本日をもちまして、大阪府食品ロス削減推進計画の見直しに関する審議を、無事終えることができましたことを心より感謝申し上げます。今回の見直しでは、非常にタイトなスケジュールの中、日程調整にもご協力いただき、円滑に進めることができました。全3回にわたりまして、委員の皆さまには熱心にご議論をいただき、各専門分野から多くの貴重なご意見やアイデアをいただきました。おかげさまをもちまして、これまでの取組を踏まえた、より実践的で分かりやすい計画改定案を作成することができたと考えておりまして、あらためて感謝申し上げます。

今後は、この部会での報告案を、年明け1月8日の大阪府環境審議会に提出しまして、花田部会長から、部会報告を行っていただく予定です。花田部会長におかれましては、引き続きご協力をお願い申し上げます。

最後になりますが、あらためまして各委員の皆さまに深く御礼申し上げまして、簡単ではございますが、閉会のあいさつとさせていただきます。本当にありがとうございました。

○事務局（荒木総括課長補佐） 乾室長、ありがとうございました。

以上をもちまして、第3回食品ロス削減推進計画部会を閉会させていただきます。皆さま、本当にありがとうございました。

（終了）